

報道関係者 各位

2023年4月4日
公益財団法人日本デザイン振興会

「2023年度グッドデザイン賞」応募を4月4日（火）より受け付け開始 審査委員長に齋藤精一氏が就任、テーマは「アウトカムがあるデザイン」



公益財団法人日本デザイン振興会は、主催事業である2023年度グッドデザイン賞の応募受け付けを4月4日（火）から開始します。応募はグッドデザイン賞のウェブサイトにて受け付け、締め切りは5月24日（水）です。

グッドデザイン賞は1957年から続く日本を代表する世界的なデザイン賞として、シンボルマークの「Gマーク」を通じて広く知られています。グッドデザイン賞を受賞したデザインは、良いデザインとして多くのユーザーやプロフェッショナルたちから信頼されるとともに、受賞者のビジネスチャンスを広げ、イメージやブランド力を高めることにも貢献しています。

新審査委員長の方針・これからのデザインが進む方向を見いだす

2023年度は新たに、審査委員長を齋藤精一氏（クリエイティブディレクター）、審査副委員長を倉本仁氏（プロダクトデザイナー）、永山祐子氏（建築家）が務めます。齋藤氏は本年度のテーマに「アウトカムがあるデザイン」を掲げて、デザインに関わる人や企業、団体などが生み出したアイデアに目を向けてその成果を読み解くことで、これからのデザインと産業・暮らし・社会が共に進むべき方向を見いだすことに挑みたい、と述べています。



齋藤精一

倉本仁

永山祐子

応募対象と応募の条件など

応募対象：商品・建築・アプリケーション・ソフトウェア・コンテンツ・サービス・システム・デザインを活用したプロジェクトや活動など。国内外、一般用／業務用は問わない。

条件：2023年10月5日の受賞発表日に公表が可能で、かつ2024年3月31日までにユーザーが購入または利用が可能な「もの」「こと」。

応募資格：応募対象の事業主体者（メーカー等）、およびデザイン事業者。

応募費用：審査費、出展費など段階に応じた費用が発生。

応募方法：グッドデザイン賞ウェブサイト(www.g-mark.org)の応募専用ページで必要事項を5月24日（水）13:00までに登録。

主なスケジュール

4月4日（火）～5月24日（水）：応募受付期間

10月5日（木）：受賞発表 [グッドデザイン賞、グッドデザイン・ベスト100、グッドフォーカス賞、グッドデザイン金賞、ファイナリスト（大賞候補）、ロングライフデザイン賞]

10月25日（水）：受賞祝賀会、グッドデザイン大賞選出会及び発表

10月25日（水）～10月29日（日）：受賞展「GOOD DESIGN EXHIBITION 2023」

賞の種類

グッドデザイン賞は「グッドデザイン賞」と、特別賞の「グッドデザイン大賞」「グッドデザイン金賞」「グッドフォーカス賞」で構成されます。グッドデザイン賞受賞対象のうち、特に優れた100件が「グッドデザイン・ベスト100」となり、この100件から特別賞の各賞が選出されます。最高賞である「グッドデザイン大賞」は1件に決定されます。



4年ぶりに受賞全作品の展示会を開催予定

受賞作は公式ウェブサイトで紹介するほか、国内外での展示会や見本市、販売イベントなどでも紹介を行います。2019年以来開催形態を変更していた受賞展「GOOD DESIGN EXHIBITION」は、4年ぶりに受賞作全件を展示する形式で10月25日（水）から10月29日（日）まで、東京ミッドタウン（六本木）にて開催します。会期中は受賞作展示のほか、受賞商品を販売するポップアップストアや各種イベントを実施する予定です。



参考 / 2019年度開催の受賞展「GOOD DESIGN EXHIBITION 2019」の様子

主催・後援

- ・主催：公益財団法人日本デザイン振興会
- ・後援：経済産業省、中小企業庁、東京都、日本商工会議所、日本貿易振興機構(JETRO)、国際機関日本アセアンセンター、日本経済新聞社、NHK、World Design Organization

グッドデザイン・ロングライフデザイン賞への応募受け付けも4月4日（火）より開始

長年にわたり人々から支持され将来にわたり価値を発揮するスタンダード・デザインに贈られる「グッドデザイン・ロングライフデザイン賞」の応募も、4月4日（火）から受け付けを開始します。企業やデザイナーによる応募のほか、商品のユーザーなどからの一般推薦も可能です。

なお本リリースに記載の各種名称・実施内容・スケジュールなどは今後変更される場合があります。

参考：グッドデザイン賞について



公益財団法人日本デザイン振興会が主催するデザインの評価とプロモーションのための事業です。製品、建築、ソフトウェア、システム、サービスなど、私たちを取りまくさまざまなものごとに贈られます。かたちのある無しにかかわらず、人が何らかの理想や目的を果たすために築いた「ものごと」をデザインととらえ、その質を評価・顕彰しています。毎年開催され、これまでに約50,000件以上のグッドデザインが選ばれています。

参考資料：

2023年度グッドデザイン賞 審査委員長・審査副委員長メッセージ

審査委員長：齋藤 精一



クリエイティブディレクター
パノラマティクス 主宰

1975年神奈川県生まれ。建築デザインをコロンビア大学建築学科（MSAAD）で学び、2000年からニューヨークで活動を開始。2003年の越後妻有アートトリエンナーレでアーティストに選出されたのを機に帰国。フリーランスとして活動後、2006年株式会社ライゾマティクス（現：株式会社アブストラクトエンジン）を設立。2016年から社内3部門の一つ「アーキテクチャー部門」を率い、2020年社内組織変更では「パノラマティクス」へと改める。2018-2021年グッドデザイン賞審査委員会審査副委員長。2020年ドバイ万博 日本館クリエイティブ・アドバイザー。2025年大阪・関西万博People's Living Labクリエイター。

アウトカムがあるデザイン

今、私がつくっているものは誰のためにつくっているのか？

今、私が買おうとしている製品の素材や成り立ちは社会にとって良いのだろうか？

今、私の目の前にあるものは、自分にどんな力を与えてくれるのだろうか？

デザインという言葉が多くの場面で使われる時代になった今、私たちものを創り出せる人・企業・産業は、デザインをすることを自負して、同じ方向に向かって進んで行っているのでしょうか？
正解の無い複雑な世の中に対して、デザインは何ができるのでしょうか？

ものづくりの裏には、たくさんのコトのデザインが必ず存在していますし、コトのデザインを達成するために、必ずものづくりは存在します。可能な限りアイデアの始まりからたどってアウトプットまでを評価するグッドデザイン賞として、モノとコトのデザインという二元論で語るのではなく、「アウトカムがあるデザイン」というテーマの下にさらに進化をしたいと思います。

現在では、余っているものを足りないところに届けることが情報のデザインによって可能になり、伝統的な手法やその地域だからこそその知恵が、伝承されたデザインとして高く再評価され始めています。

デザインを大量生産・大量消費するサイクルではなく、たくさんの良質なデザインをたくさんの人に届けることも、デザインを必要とする人に必要な量だけ届けることも可能になりました。また、企業の評価基準も変わり、社会に貢献することで経済効果が示せる時代にもなりました。

そんな時代だからこそ、グッドデザイン賞はデザインに関わる人や企業、団体などが生み出したアイデアに目を向けて読み解くことで、これからのデザインと産業・暮らし・社会が共に進むべき方向を見いだす役割に挑戦したいと思います。

ソーシャルデザインという言葉が多くの場で使われるようになった20年前、ナラティブ＝物語という社会的意義を求めた10年前、パーパスを企業価値やブランドとして定義した近年、こうした時系列の上に立ちながら、いまデザインに関わる全ての人が進むべき北極星を「アウトカム」として、皆さんのデザインを通して議論し見つけてまいります。

多様な視点や課題意識から生み出されたアイデアに満ちたデザインに出会えることを、審査委員一同楽しみにしております。

参考資料：

2023年度グッドデザイン賞 審査委員長・審査副委員長メッセージ

審査副委員長：倉本 仁



プロダクトデザイナー
JIN KURAMOTO STUDIO 代表取締役

1976年生まれ。家電メーカー勤務を経て、2008年 JIN KURAMOTO STUDIO を設立。プロジェクトのコンセプトやストーリーを明快な造形表現で伝えるアプローチで家具、家電製品、アイウェアから自動車まで多彩なジャンルのデザイン開発に携わる。金沢美術工芸大学、武蔵野美術大学非常勤講師。

デザインの意思

私たちの生きるこの世界は常に流動的で変化に富み、潮流のよううねりによって物事の価値、文化、人々の興味が常に移り変わっています。

デザインは、人と事物と周辺環境のより良い調和を見つけるためにあると考えると、いま私たちはどのようにそれらが調和した風景を思い描くべきでしょうか？
経済を牽引する産業に貢献したデザインの顕彰制度として始まったグッドデザイン賞は、その長い歴史の中で多様な世相を反映して変容しながら、時代時代の価値観を映し出す「ものさし」のような役割を担ってきました。我々が審査を担うデザインの事物には、企業や作者の想いや願いなどが宿っています。そうした「意思」はデザインを構成する要素の根幹となり、製品や取り組みを力強く駆動させる力となります。意思は取り組みの規模によって良し悪しを判断されるものではなく、例えば、身の回りのささやかな幸せを叶えるものであったり、実直な製品の適正進化であったり、自然環境や地球に暮らす全ての動植物への思いやりであったりと様々です。私たちはそうした意思の尊さを積極的に読み取りたいと思います。

また、意思の価値が重要視されると同時に、その意思が適切な方法、質の高い技術で実現・実装されているかどうかも極めて重要です。良いデザインとはプロジェクト全体を表す寛大な視野と細部にフォーカスされた飽くなきこだわりを併せ持つものです。今年度もグッドデザイン賞を通して多様な願い、想い、提言に出会えることを楽しみにしています。

参考資料：

2023年度グッドデザイン賞 審査委員長・審査副委員長メッセージ

審査副委員長：永山 祐子



建築家

有限会社永山祐子建築設計 取締役

1975年東京生まれ。1998年昭和女子大学生活美学科卒業。1998-2002年 青木淳建築計画事務所勤務。2002年永山祐子建築設計設立。主な仕事に、「LOUIS VUITTON 京都大丸店」「丘のある家」「ANTEPRIMA」「カヤバ珈琲」「SISII」、「木屋旅館」「豊島横尾館（美術館）」「渋谷西武AB館5F」など。ロレアル賞奨励賞、JCDデザイン賞奨励賞、AR Awards（UK）優秀賞、ARCHITECTURAL RECORD Award, Design Vanguard、JIA新人賞など受賞多数。現在、ドバイ国際博覧会日本館（2021）、新宿歌舞伎町の高層ビル（2022）、東京駅前常盤橋プロジェクト「TOKYO TORCH」などの計画が進行中。

デザインの力

「デザインの力を信じているか」とかつて聞かれたことがあり、その時、私は「信じている」と即答しました。でも今、本当にそうだろうかと思いつく自分もいます。私が育った子ども時代（1980年代）は今よりも、なんだか明るい未来に向かって進んでいるというような漠然とした感覚があったように思うのです。そしてその中に新しいデザインと、そこから生まれたムーブメントがありました。

今、私たちの子どもたちが生まれ育っているこの時代は、未来に向かって夢が持てる状況なのか、新しいデザインによって明るい未来を見せることができるのか。世界中を席卷したパンデミックの波。未知のウイルスの恐怖もさることながら、私たち自身が課す行動制限によって元気を失っていく社会。もう起こらないとどこかで信じていた平和神話を打ち破る戦争の恐怖。じわじわと押し寄せる気候変動と災害。未来はもっと今より明るいなんて示せるのだろうか。そんな現状が私たちに突きつけられています。

でもモノを作り出す者として、もう一度、今この時代だからこそ「デザインの力を信じている」と言いたい。グッドデザイン賞は新たなテーマ『アウトカムがあるデザイン』。今年の成果を通して次年度のテーマを紡ぎ上げていくという試みが今年度から始まります。常に今は過去から未来への通過点です。それぞれに信じ、望む未来を自分で手繰り寄せるための手段としてのデザイン。それを多くの人と共有し、未来を模索する場であってほしいと思います。